シリーズ

板谷波山生誕150年

1872～1963

板谷波山生誕150年記念展が間近に迫ってきました。波山というと、「鳩杖」を思い浮かべる人が多いかもしれません。「波山検索ファイル」の最終回は、その鳩杖で締めくくることにしましょう。

一木努の

波山検索ファイル Vol.10（最終回）

「鳩杖」

波山の「鳩杖物語」は、左のおじいさんから始まりました。

波山の義理のお兄さんで、実家の「板善」を引き継ぎ4代目を襲名した板谷善吉さんです。この人がめでたく80歳を越えたので、波山はお祝いを考えます。そして古くから宮中で長寿祝いにされていたという、握り手が鳩の形をした鳩杖を作って贈ろうと決めました。

さらに「そうだ。故郷のお年寄り、みんなにあげよう！」と思いつきます。

急ぎ長寿者の人数を役場に問い合わせ制作に取り掛かります。こうして昭和8年3月19日、この町の80歳以上の高齢者37人全員に鳩杖が贈呈されることになったのです。

ここでこの町というのは合併前の旧下館町。鳩杖で祝福される幸運に恵まれたのは、現在の住居表示でいうと甲乙丙の区域に住むお年寄りたちで、最高齢が90歳、平均は82・5歳でした。因みに鳩杖のきっかけとなった善吉さんは、その翌々月に亡くなっています。

左ページ上の写真は第1回目の集合写真ですが、これは後日、お年寄りが鳩杖を持ち寄って撮影したもの。波山は高齢者の家を訪問して、自ら一人ひとりに鳩杖を手渡していたのです。その様子を記録に残している人がいました。

「ある日、家の前に突然立派な乗用車が横付けされた。その頃の下館には自動車は2～3台ぐらいしかない時代で、珍しい風景なので、私が驚いて店に出てみると、役場の助役と一緒に礼装した波山先生が『ご長命でおめでとうございます』と、丁寧な挨拶をなされ、その上、お祝いの品を頂いたのである。そのお祝いの品は宮中鳩杖で、それも波山先生の作なのである。驚きと光栄の至りで祖母はもちろんのこと家中大喜び……」（「我が三代記」小山文太郎）

昭和10年に撮られた波山の家庭訪問の写真（下）も出てきました。縁側に座るおばあさんの傍らに、贈呈されたばかりの、熨斗紙、水引きが付いた鳩杖の箱が写っています。

波山は60歳でこの大事業を始めてから、毎年80歳を迎えたお年寄りに贈り続け、戦災で東京の自宅と工房を失った時でさえ、やめることはありませんでした。戦後、握り手の「鳩」は金属から陶器に代わりますが、波山自身が80歳となる昭和26年まで19年に亘って継続され、その数は260本を超えています。戦没者への観音像贈呈と同様、誰から依頼されたわけではなく、下世話な言い方ながら自腹を切って、純粋な気持ちを形にして故郷の人々に届けてくれていたのです。

150年記念展では、所蔵されているみなさんのご厚意で、鳩杖や観音像が波山記念館に集合します。実際に手にすることのできる「鳩杖体験企画」も用意しています。心のこもった故郷への贈り物の数々は、板谷波山の麗しい生き方を、静かに語り伝えてくれることでしょう。

ぜひ、お出掛けください。

文　下館・時の会代表　一木努さん

波山ニュース

令和3年5月1日号からの、一木努さんと荒川正明さんによる連載は、今3月1日号で終了となります。一年間お読みいただきましてありがとうございました。

次号では、4月16日（土）から6月19日（日）まで開催される「板谷波山生誕150年記念事業」についてお知らせします。

波山の選りすぐりの名作を一堂に集めた展覧会や、イベント会場での催しを案内する予定です。

― 三月 弥生 ―

文・学習院大学教授　荒川正明さん

彩磁草花文花瓶

板谷波山作　大正後期（1922～1926）頃
高さ 23.4㎝　胴径 23.7㎝
廣澤美術館蔵

板谷波山生誕150年記念展の開催が、近づいてきました。現在、展示の構成も決定され、オシャレな図録も完成に向かっています。あと少し、もう少しですので、みなさんどうぞご期待ください。

ここで、お知らせです。今回の展覧会のマスコットキャラクターが決定しました。もちろん波山作品から選出。

それは今回紹介する「彩磁草花文花瓶」。今後ポスターやチラシに使用され、本展覧会の「顔」として、展覧会の間、街のあちこちでご覧いただくことになるでしょう。

この作品、なんといっても器面を埋めるストライプ柄がカッコよく、過去の波山作品には見られない斬新さ。波山の作陶活動においても頂点期とされる、大正時代後期の逸品で、格調の高さはさすが波山です。

しかし、この作品何かが違う。その革新性、波山の攻めの姿勢が感じられるのです。

器面の三方に大胆に窓枠を置き、シルクロードから伝えられた更紗文様のゴージャスな草花文が描かれ、皆をあっと言わせてやるという波山の野心作に違いありません。筑西の街に新たな風を吹かせる予感がしませんか……。

我々はこの「彩磁草花文花瓶」を旗印にいざ出陣です。展覧会会場で、みなさんとお会いできることを楽しみにしています。

【問】しもだて美術館　☎23－1601